
文章力不足注意「夏祭り」・・・友達が季節ネタをやってきたので晒す。

・・・友達が厨二病でうざいのであいつが書いたのを貼る

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

文章力不足注意「夏祭り」・・・友達が季節ネタをやってきたので晒す。

【Zコード】

N7727M

【作者名】

・・・友達が厨二病でうざいのあいつが書いたのを貼る

【あらすじ】

夏祭りの夜、ちょっといろんな思いが交錯する。

つて感じのを書こうとしてみました！

元曲：whiteberryの『夏祭り』

(前書き)

昨日祭りがあつたんで、ついでに打ち込んでました。
それにしても・・・内容酷いな。
途中主人公キャラ変わっています。
しかも長めです。気をながくして読んで下さー

君が居た夏は遠い夢の中、空に消えてつた打ち上げ花火。

病院の窓から少女は花火を見る。

付けっぱなしのラジオから音楽が流れ終わり、DＪの陽気な声が戻ってくる。

「は～い、いかにも夏っぽい曲でしたね～」

DＪの声とは裏腹に少女の顔はどこか切ない。

『お次も夏っぽい曲だ、P・N・Tータローさんのワクエスト、hit eber ryで【夏祭り】』

声がラジオから流れると同時に少女が口を開いた。

『「君が居た夏は遠い夢の中、空に消えてつた打ち上げ花火』』

少女はその曲を聴いて去年の夏祭りを思い出した。

わたしは那津雲なつくもましる。簡単に言つと今日は「ヒートだ。だが、目的はそれではない。

「ごめん、浴衣着んのに手間取っちゃってさあ。」

「遅すぎるよ～」

こいつは捺天なつぢらひかる

「ましろはさ、浴衣が似合うつわいか可愛かわいってか・・・」

ひかるの顔が赤い。

「ひかるも似合つてゐよ」

「ありがと、頑張つて着た甲斐があつたわ～」

こうしてると普通のカップルみたいだな。こいつとは絶対そんなのになりたくないけど。

「んじゃ、いこつか。」

「そだね」

一人は歩き出した。それぞれ違う思惑を持つて。

しばらくすると、人、人、人。

凄い人の量。この辺の人みんないるんじゃないかな、ってほどの人の量だ。

そんな中、少しひかるは前を歩いている。
少しづつ、少しづつ距離が遠ざかっていくを感じる。
なぜか物寂しくなった。理由は分からないが。
「離れないで」そう口には出さず心の中で思った。
手でも繋げばよかつたな。と後悔した。

その時、

ドーン！！！、パラパラパラ・・・。

花火が上がった。それでこいつは、

「花火だ・・・」

と呟いてこっちを見た。

そして気が付いて、

「手、繋ぐ？」

ちょっと恥ずかしかつたが、手を差し出した。

「いいよ

あれ？私こいつのこと・・・

いや、今は感情を殺せ。あの子のことだけ考えるんだ。

二人で手を繋ぎながら、神社の中をどんどん進んでゆく。

「あ、金魚すくいでもやる？」

苦手なので断ることにした

「うーん、見てるだけでいいかな。」

「こうとこいつも残念そうに

「あ、そつ。じゃあ見ててよ！」

と、子供みたいな表情で言った。

こいつがこんなにもなるなんて、よっぽど自信があるらしいな。

「おっちゃん、一回」

といい、ポイを受け取ると
ばしゃばしゃばしゃつ

結構、獲った。

「どう?」

その後に、俺かつこいい?、がこいつの中では付いてるんだろうな。

「かつこいいよ」

そういうてほほえみ返した。

手ぶらで歩くのもなんなので、適当に夜店で一人で綿菓子を買った。
ふと横を見ると、こいつの友達がいた。

「・・・」

こいつはしかめつ面をして少し前を歩いた。
ちょっと寂しい

つてなにを思つてるんだわたしは! もう。
ドーン!!!!、パラパラパラ・・・。
また花火だ。

「ねえねえ、手、もつかい繋ご」

と、ちょっと上目づかいで見てみる。

「あ、ああ」めんな、離れて
やつと手、自分から繋げた

よく考えたら何をやつてるんだわたしは!?

そつと二人で人混みから逃げ出した。

神社の石段で、持ってきた線香花火をやろうと私が誘つたのだ。
少し離れただけなのに、あの人混みから遠く遠く離れてしまつた気が
がする。

「はい」

といつて線香花火を一本手渡す。

「ありがと」

といつて、二人同時に火を付けた。

線香花火の火が落ちるまでの間、友達のこと、勉強のこと、親のこと、ゲームのこととかテレビのことまで話し合った。火が落ちると、新しい線香花火に同時に火を付けた。そしてまた、いろんな事を話した。

私はこいつのことが好きかも知れない。

じゃあ少しだけ恋人でいよう、たとえすぐ終わってしまっても。そうやつて過ごしていると、最後の花火の火が落ちてしまった。

「もう・・・お終いだね」

仕方ないのかな、私の事情じゃないのに。

確かに今ここでやめてもいい、でも、やめてしまつと一生出来ない・

・・気がする。

「ああ、これからどうする？」

「しかたないよね・・・」

言い聞かせるように呟いた。

「じゃあ・・・おえつ！？」

彼が私の腹を刺していた。包丁で。

「おいおい、恋人生りかよ。ほんつと、やめてくれよ、そんなの。

」

「・・・なんで？　なんで！！？」

「はあ？　馬鹿じやねえの？　覚えてないとか言うなよ、お前に俺の両親は殺されたんだよ！」

覚えてなくもないが、あれは・・・。

「それは事故だつたじやない！」

「ああ、確かに物心付いてないお前が、しでかした事故だつた。でもな、それでもお前が親の仇であるのと変わりないんだよ！！！」

そうだつたのか。この祭りは一人とも本心じやなかつたんだ・・・。寂しいな。そうだつたんだ。

彼は血走った目で天に向かつて言つていた。

「やつたよ・・・みのり・・・」

みのり・・・?

その時のもうひとつする私の頭では思い出せなかつた。どうせ、本当の彼女だらう。

「じゃあ、そのみのりさんとも会えないね。」

「おまえ、なにを・・・ぐはつ」

彼の腹に包丁が刺さつた。といつが刺した、私が。

「へえ、じゃあ私も仇討ちつてとこね・・・」

聞こえてるかどうか分からぬが、わたしはか細い声で言つた。
すう、と息を吸い、一気にまくし立てた。

「友達の仇！って覚えてないか。あんたがいじめて自殺に追い込んだあの子のことをね！」

結局、一人ともお互い殺意しか心の中になかつたわけだ。

おもしろおかしい笑い話である。

「結局・・・二人は・・・結ばれないのね・・・」

と呟いて意識が途切れた・・・。

その後わたしは、幸いにも一命を取り留めた。まあ一年ちょっと入院しなければならなかつたのだが。

しかも正当防衛で捕まらずに済んだ。

あいつは・・・。

簡単に言うと死んでしまつた。急所を刺されて。

確かにこの恨み合いはどうちらかが死ぬまで終わらなかつただらう。

でも、こんな終わり方つて・・・

「こんなの無いよね・・・」

と呟くと、

『いろんな事話したけれど、好きだつて事が言えなかつた

最後のサビの手前だ。

「本当に、言えなかつた」

ちゅうと後悔したが、どうせ、断られていただけ。

ガララッ

病院の引き戸が開いた。

とつとつと・・・。

暗がりなので顔は見えないが、私より三つぐらい年下の身長だった。やがてその陰は私の上に乗つて首を絞めだした。

一年動いてない私の体は、もう抵抗出来るほどの力は残つてなかつた。

「・・・兄貴の仇」

影は言つた。

みのり・・・そういうえばあいつ、みのりつていう妹いたっけ。ふと、視界の隅に、彼が見えた気がした。

憎しみのこもつた顔じゃなく、お祭りの時のどこかかわいげのある顔だつた。

君となら・・・死んでもいいかな。

一緒なら・・・そつちに行つてもいいかな。

「なに？ もつと苦しみなさいよーほら、もつと痛がりなさいよー兄貴の分までーーー！」

憎しみのこもつた声から、次第に悲痛な叫びに変わつていた。

「何で？ 何であんなに優しかつた兄貴を殺したの？ 私にとつてあの事故以来唯一の肉親だつたのに！

確かに兄貴は貴方を刺そうとした。でも、私から兄貴を奪うなんて酷いじやない！

返して！返してよー私の家族を！

そんな叫びも、屍には届くはずもない。

「もう・・・私も兄貴の所行こうかな・・・。」

そんな少女の声は叫びすぎて枯れていた。

「じゃあね・・・」の世。」

(後書き)

これ、妹サイドあつたら面白いよね。
とはいって、最後まで読んでいただき、ありがとうございました！
・・・後四作完成させなきゃ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7727m/>

文章力不足注意「夏祭り」・・・友達が季節ネタをやってきたので晒す。

2010年10月9日06時07分発行